

Mental Health, Treatment Preference, Advance Care Planning, Location, and Quality of Death in Advanced Cancer Patients With Dependent Children.

Matthew E. Nilsson, Paul K. Maciejewski, Baohui Zhang et al

Cancer Jan.15 2009 : 399-409

< 背景・目的 >

24%の進行がん患者に 18 歳以下の子供がいる。子供がいる場合、これからどう養っていくかという問題が残り終末期の治療方針を決めるのが特に難しい。

子供を持っていることがどう終末期医療に影響しているかの研究はない。そのためこの研究では子供を持つ場合と持たない場合で終末期医療にどう差がでてくるかを検討した。また配偶者など介護者への影響も検討した。

< 方法 >

- データ集め -

National Institutes of Health Coping with Cancer(CwC) study といった進行がん患者の多施設で行った縦断的研究のデータから今回のデータを集めた。データでは、ベースラインで患者と介護者に対して、またお亡くなりになった後に治療者と介護者に対して、訓練された研究スタッフにより電話もしくは直接のインタビューを行っている。

研究適応基準：進行がんであること(遠隔転移、化学療法に抵抗、余命 6 ヶ月)、20 歳以上、雇われた介護者でないこと、研究に参加できる状態であること。

研究排除基準：せん妄患者、英語もしくはスペイン語を話せない。

958 人の対象患者がいたが、289 人は研究の協力は得られなかった。最も多い理由は興味がないだった。

・ Baseline interview

誰と一緒に住んでいるか？：配偶者、依存している子供、独立している子供、依存している大人、他の親戚、友達・使用人・両親・その他
With or without dependent children の 2 つに分類。

McGill Quality-of-Life questionnaire

DSM-4-TR、SCID

患者の Peacefulness を質問表で測定：peaceful or not peaceful

自分がターミナルであることを認識しているかどうか

患者の希望に沿った End of Life をおくっているかどうか、治療者と議論しているかど

うか

延命治療を望むか緩和治療を望むか (DNR, Living will)

- ・患者さんが亡くなられた後、亡くなられた場所や最後 1 週間の生活がどうだったか治療者・介護者より調査し、QOL は 0 - 10 点で評価した。

< 結果 >

668 人の患者と 343 人の配偶者である介護者からデータを得た。Dependent children の有無で余命に差はなかった。また With dependent children 群の方が年齢は若かった。(Table1-3)

Without dependent children 群と比べ、With dependent children 群では患者はより不安が強く、パニック障害になっている人が多く(AOR5.41)、peaceful が少なかった(AOR0.53)。また With dependent children 群の患者の介護者の方がうつ病(AOR4.53)や全般性不安障害(AOR 3.95)になっている人が多かった。(Table3-4)

患者のターミナルの認識具合は大差はなかった。

With dependent children 群では延命治療を望む人が多かった(AOR1.77)。また DNR(AOR0.44)や Living will(AOR0.49)を望まなかった。

終末期医療には大差がなかった。多くの患者(54%)が自宅で亡くなられた。自宅で亡くなられた方のほとんどがホスピスの外来に通っていた。また亡くなる 1 週間の QOL は With dependent children 群の方が悪かった。(Table5-6)

< 考察 >

子供を持つ進行がん患者はより不安をかかえており、より積極的な延命治療を望み、DNR や Living will を望まなかった。そして死の直前の QOL は悪くなっていた。このことから、子供を持つ進行がん患者ではより社会心理的なサポートがより必要であるかもしれない。患者はどう子供と病気のことについて話していくべきか、介護者は患者の病気をどう受け止めていくべきか、考えていく必要がある。